

3-5

「寝たきり0」「拘束0」「褥瘡0」で学んだこと

職員の心のバリアをはずし利用者主体の介護になったこと

利用者本位の介護

意識改革

特別養護老人ホーム 青陽園

介護科長 横倉純枝

東京都八王子市川口町1543番地

TEL：042-654-4025

E-mail：main@seiyoen.com

FAX：042-654-4086

URL：http://www.seiyoen.com

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

東京都で8番目、八王子市では初めに出来、80床からスタートし、現在は160床定員（ショートステイ20床含む）で、入所者は透析以外の利用者は隔てなく受け入れしている、今年40周年を迎えた特養ホームです。

〈取り組んだ課題〉

- ・ 重介護のご利用者を寝かせきりにしない
- ・ 拘束廃止委員会はあったが徹底されず4点柵、Y字ベルトの使用、隔離された棟のオープン
- ・ 他施設から入所されたご利用者や寝たきりの方の褥瘡を0にする

〈具体的な取り組み〉

- 寝たきり0については、新しい建物に移り食堂が整備されたことで、ご利用者160名のうち11名の方にたいして行われた。看護師、PTのアドバイスのもと身体状況をチェックし、職員2名で抱えて起こし、リクライニングや普通型の車椅子を使用し3度の食事は食堂で摂ることを職員の共通認識として始め約1ヶ月かけておこなわれた。
- 拘束0に関してまず職員の心のバリアを無くす事からはじめ、痴呆棟（約22名）のドアロックの解除は即日（園長指示のでた日）から、4点柵（4～5名）については4本から3本、3本から2本へと、Y字ベルト（約8名）の使用はご利用者の状況観察を密に行い他部署との連携のもと約2ヶ月くらいで0となった。リスクも考え低床ベットや畳の対応、センサーマットの導入、事故報告書の活用をした。
- 褥瘡0は皮膚科Drのアドバイス、看護師の薬の塗布や指示、2時間ごとの体位変換、排泄介助時の陰部洗浄を毎回おこなった。

〈活動の成果と評価〉

- 寝たきり0
 - ・ 食事の時間帯だけでなくレクリエーション等にも参加するなど、長時間の離床が可能となった。
 - ・ 生活の場として明るい雰囲気になった。
- 拘束0
 - ・ 痴呆棟のドアロックを解除しオープンにしたことでの事故はなにもおこらなかった。逆にご利用者は落ち着かれた。
 - ・ 4点柵についてもご利用者の気持を理解し、職員が行動することで解決した。
 - ・ Y字ベルトも同じく職員間の連携により解決された。全ての拘束はなくなった。
- 褥瘡0
 - ・ 寝たきりを無くすことで褥瘡も自ずと0となった。
- 利用者家族との連絡を密に行うことで信頼関係を築き事も出来、事故報告書の有効活用の成果が現れた。
- 著しい職員の意識レベルのアップがはかれた。

〈今後の課題〉

- 取り組んだ課題のみに終わらず今後も積極的にご利用者主体の介護に取り組んでいく

〈参考資料など〉

特になし